

わき目もふらず比例での党躍進の活動に力を集中しよう

比例46万へ兵庫キャラバン

反応の大きさにびっくり

兵庫は12の小選挙区のうち、今発表している党の立候補は5選挙区とこれまでで最も少なくなっています。この下で、比例代表選挙でどう前進するかは大きな課題です。9月に「県内の日本共産党の風を吹かせ、比例46万票実現に資する」との目的で、小選挙区候補をまだ擁立・発表していない選挙区をまわる、県内比例キャラバンを開始しました。

9月は地方議会が開会中（尼崎市議のこむら潤候補も同様）で、地域の“実力者”に弁士を要請して欲しい旨も各地区委員会に連絡。どうしても弁士が確保できず、県委員会から派遣したこともあります。元議員を中心に弁士を務め、「弁士はできないがアナウンサーなら」「道案内なら」という方も現れました。

途中、地方選挙があり11月に再開。今度はこむら候補、地方議員を中心に、宣伝箇所を事前に知らせ、要所で宣伝隊も組織しました。宝塚市の逆瀬川駅ではこむら候補の訴えを最後まで聞いていた高齢の女性に、こむら候補がお礼を言いに行くと「3人の子育てをしているというだけでもすごいのに、選挙に挑戦するなんてすごいと感心して聞いていた」と話しました。こむら候補はリーフと名刺を渡し、「子どもさんたちにも比例は全国どこでも日本共産党とお広げ下さい」とお願いしました。神戸市横断キャラバン（東灘、灘、長田、兵庫、西、北、垂水、須磨の各区）では各所に応援隊が来て賑やかな宣伝になりました。

「この場所でいつも街宣するけど、こんな反応はない」「今、打って出ることが大事だとわかった」などの感想が寄せられました。キャラバンを通じて党の政策とともに、「日本共産党はどんな政党か（日本共産党のここが好き）」を語る工夫



が始まっています。とはいえ、到達はまだまだ不十分です。この経験を踏まえ、二中総で提起された「わき目もふらず比例での党躍進」へ全力をあげる決意です。（兵庫国政事務所長・金田峰生）

大阪16区比例デー

「候補者は共産党」に元気が出た

大阪16区（堺市堺区、東区、北区＝小選挙区候補を立てていない）は11月21日、「比例デー」に取り組み、3カ所で清水ただし衆院議員が訴えました。PCR検査拡大を求める署名を机に置き、「困ったときは共産党」などのプラスタースト出し、聴衆にも「固まらずに」と呼びかけながらの街宣。急に冷え込んできた日曜日でしたが、たくさんの地元後援会メンバーが参加しました。

ビラの受け取りも良く、どこでも足を止めて聞く人の姿も。ある参加者は「候補者がおらず選挙に向けてと言ってもなかなか元気が出ていなかったが、候補者は共産党、比例で党を大きくと正面から訴えてもらい、集まったメンバーも元気出していた」と感想を語っていました。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 70(2020.12.22)